

# 山口ゼミナール 長崎県五島列島（福江島・奈留島） 巡検報告

国際日本学部 観光地理学（山口）ゼミナール

観光地理学を専攻とする山口ゼミナールでは、4年生の自主巡検として2025年8月25日から27日にかけて長崎県五島列島に出掛けた。世界遺産の「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」と日本ジオパークの「五島列島ジオパーク」を視学の軸に据えた巡検である。

初日は長崎市内の新地中華街を観光した後（羽田発の飛行機の出発が遅れ、予定していた大浦天主堂の見学ができなかった）、ジェットフォイルにて五島列島の福江島へ向かった。到着後、五島観光歴史資料館を見学した。二日目は船で福江島から奈留島へ渡り、奈留島世界遺産ガイドランスセンター、江上天主堂、奈留高校に設置されたユーミンの歌碑、奈留教会、前島のトンポロを見学した。その後、福江島に戻って福江武家屋敷通りを散策した。最終日は福江島にて、明人堂、堂崎教会、五島ジオパークの鏡瀬ビクターセンター、鬼岳を訪れた。

五島列島は九州の最西端、長崎市から西へ約100kmのところの位置する。この列島は南西から北東へ約150kmにわたって広がり、130の島々から構成されている。主要な島は、福江島、

久賀島、奈留島、若松島、中通島である。

そのうち福江島には五島市役所があり、長崎港や博多港とフェリーで移動できる上、五島列島の中で唯一空港があることで、玄関口としての役割をもつ。大瀬崎灯台や鬼岳、高浜海水浴場といった自然を生かした観光資源に恵まれている。また、禁教令解除後にこの地に最初に建てられた堂崎教会をはじめ、多くの教会が点在する。さらに、2025年7月公開の映画『この夏の星を見る』のロケ地としても注目を集めている。

奈留島は潜伏キリシタンの遺産が多く残っている島である。潜伏キリシタンが地勢や風土に適応しながら信仰を続けた禁教期からの歴史の連続性を残しているものとして、江上天主堂とその周辺を含む江上集落が世界遺産となっている。

日本文化学科4年 高橋 彩矢加

今回の巡検において、私は福江武家屋敷通りの町並みが印象に残っている。福江武家屋敷通りは、江戸時代初期に当時の藩主が藩士達を住まわせたことが始まりとされている。約400mの直



福江武家屋敷通りふるさと館

線の通りで、道幅は車1台半ほどであった。石垣によってそれぞれの屋敷ごとに囲んだ地割が見ら

れた。石垣には、鬼岳が噴火したときに流れ出た溶岩からできた石が利用されているそう。石垣の上には「こぼれ石」が積まれており、独特な景観を形作っていた。こぼれ石は、当時、侵入対策や投石用の武器としての役割があったそう。こぼれ石の横にあるかまぼこ型の「脇石」は、こぼれ石をブツクエンドのように支えるだけでなく、目印としても使われていたそう。門は「薬医門」と呼ばれる門構えがほとんどだそう。景観構成要素である石垣、こぼれ石や門を残し、薬医門を模すなどの景観づくりが行われているようだったが、近代的な建物や駐車場、空き家などもみられた。

福江武家屋敷通りにおいて、私は伝統と生活の融合による景観が興味深かった。本来の役割を終えた独特な景観構成要素であるこぼれ石が暮らしの中に馴染んだ状態は、そこで暮らす人々のアイデンティティとなることで、景観保存と住民が納得できるまちづくりの両面において意見が一致しやすくなるという利点があるのではないかと思った。福江武家屋敷通りは独自の景観を残しながらも現代の暮らしに合わせて変化しており、町並み保存における伝統と生活のバランスの重要性を改めて考えさせられた。

国際文化交流学科 4年 佐々木花穂

五島列島を訪れて、五島列島はキリシタンの歴史が色濃く残っている場所だと感じた。1612

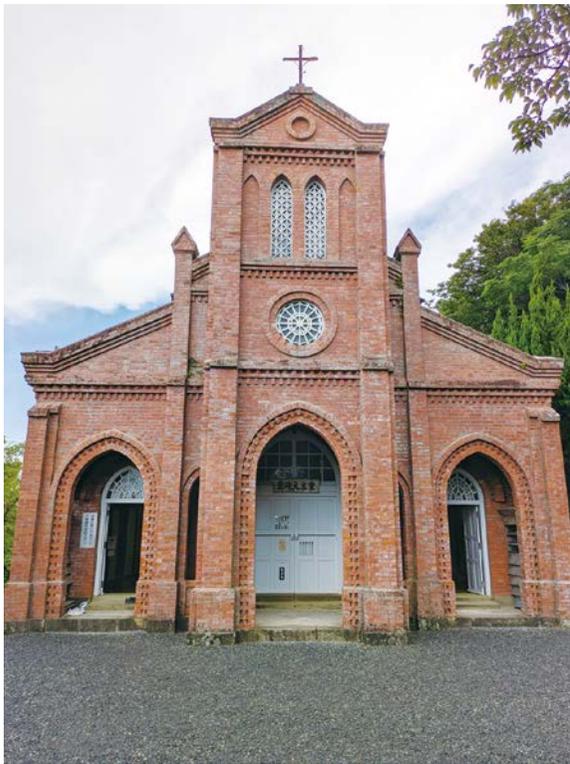
年に江戸幕府によって禁教令が出されると、長崎の本土に住んでいたキリシタンは迫害を逃れ、五島列島に密かに移住した。当時五島列島は未開拓の地が多く、そのような理由から移住先に選ばれたのだ。集落の中には共同体の維持のためにキリシタンが開拓したところはいくつかあり、世界遺産に登録されている12の構成資産のほとんどが集落である。1873年に禁教令が解かれると、カトリックに復帰したキリシタンが信仰を続けるために教会をつくった。現在も約50の教会がある。

堂崎教会ではキリシタンの信仰を象徴するさまざまなものが展示されており、例として観音像をマリア像に見立てたマリア観音像などが展示されていた。このような展示物は、仏教などの日本の

伝統的宗教と関わりながら信仰を続けようとしたことを物語っている。まちを歩いているといくつも教会があり、キリシタンの歴史が地域に根付き、形として残っていることが実感できた。教会を残すことや、集落などが世界文化遺産に登録されることで、五島列島とキリシタンの歴史を形として後世に語り継いでいくことができているのではないかと思った。

歴史民俗学科 4年 藤巻さやか

五島列島の各所を巡る中で特に心に残ったのは、キリスト教弾圧という共通の歴史を抱えながらも、教会ごとにその外観や現在の機能に大きな



堂崎教会

差異がみられるという点である。

福江島の堂崎天主堂は、禁教令解除後に築かれた最初の布教拠点とされ、異国情緒あふれるゴシック風のレンガ建築が現在も美しい姿を留めている。館内には潜伏キリシタンの歴史を伝える多くの史料が並び、観光客をはじめとした人々がその時代を学ぶための場として機能していた。

一方、奈留島の江上天主堂はロマネスク様式の木造建築で、外観のポップなカラーと内装の荘厳なこもり天井とのギャップがひととき印象的だった。館内の一角には、びっしりと絵や文字が刻まれた壁が残されており、現地のガイドの方にお話を伺うと、かつて子供たちが落書きをした跡だそう。現在は観光地としても注目を集める江上天主堂だが、それ以前にこの教会がいかに地元民に親しまれてきたかを肌で感じられる光景であった。

また、同島には奈留教会がある。台風被害により木造建築が解体されたのち、現在はコンクリート造りと思われる白壁の建物に再建されている。住宅街に溶け込むように佇むこの教会の入口には、観光客に節度ある行動を促す看板が掲げられており、観光資源としてよりも、今なお島民の集会所としての役割を大切にしていることがうかがえた。

このように、教会の外観や機能は、五島の各地域における信仰形態を反映していると感じた。弾圧の中で信仰を守るために工夫を凝らし、独自の信仰方法を編み出した潜伏キリシタン。その工夫

は地域ごとに特色を持ち、さらに時代が経つにつれて変化し続けている。五島列島は、島の面積からは想像もつかないほど多種多様なキリスト教信仰が息づく場所であり、本巡検を通してその奥深さと重みを改めて知ることができた。

#### 国際文化交流学科4年 内山結菜

この巡検を通じて特に印象に残ったことは、信仰が地域に根つき、時を超えて受け継がれてきた過程を実感できたことである。

奈留島の江上天主堂は、1881（明治14）年に西彼杵郡などから移住した4家族が洗礼を受けたことに始まる。クリーム色の外壁と水色の窓枠



奈留島の江上天主堂とゼミ生

が特徴的な木造建築であり、手描きの木目柱や花模様のレストランが独特の美しさを放っている。現在の教会は1918年に、40〜50戸ほどの信徒が協力し、キビナゴの地引網で得た資金をもとに建てられたものである。海辺に近い木造建造物が、100年以上を経た今日まで保存され、観光地として人々が訪れる場所となっていることは非常に興味深い。

私はいわゆる無宗教であり、これまで宗教や信仰について深く考える機会はなかった。しかし、江上天主堂や堂崎天主堂を見学する中で、信仰とは単なる祈りではなく、人々の生活や言葉に根差した重みをもつものであると感じた。五島列島では、お盆に提灯を灯し、五島市を中心に伝わる古

い念仏踊り「チャンコロ」を踊るといった行事が現在も受け継がれている。これらの風習が今日まで続き、私たちがその姿を目にできるのは決して当たり前のことではない。それは、信仰や文化を次世代へと伝えようとする人々の努力の積み重ねによるものである。そのことを改めて実感した巡検であった。

#### 国際文化交流学科4年 中新佳那

奈留島は、複雑に入り組んだ地形が天然の良港を生み出し、古くから漁業の島として栄えてきた。また、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」を構成する江上集落（江上天主堂とその周辺）も所在しており、歴史的価値の高い地域として知られている。しかし、奈留島の魅力はそれだけではない。昔ながらの漁村の雰囲気の中でのおんぴりと過ごすことも、島内に点在する景勝地を巡ることもでき、島ならではの体験が旅の醍醐味となっている。そして、奈留島といえば忘れてはならない場所がある。それは、歌手・松任谷由実さんの歌碑である。歌碑は奈留島の見どころとして公式ホームページでも紹介されており、島を象徴する存在となっている。長崎県立奈留高等学校には、松任谷由実（当時・荒井由実）さんが作詞・作曲した同校の愛唱歌「瞳を閉じて」の歌碑が建立されている。この楽曲は、同校が分校であった1974年に、当時の女子生徒から校歌制作を依頼されたことをきっかけに誕生したも

のであり、半世紀近くにわたり島の人々に親しまれてきた。歌碑は、地元の人々にとっただけでなく、訪れる人々に島の歴史や思いを伝える存在であり、観光名所としても広く知られている。歌詞に込められた「島を離れる人への思い」や「遠くにいる友人への思い」は、奈留島の自然や人々のつながりと深く結びつき、島の風景や文化を象徴するものとして多くの人々の心に残っている。

私たちが歌碑のある奈留高等学校へ向かう際に、移動の車内で「瞳を閉じて」を聴いた。同楽曲を聴くのはこの時が初めてであったが、島の静かな海や山の風景と歌が重なり、歌詞の世界が目の前に広がっていくように感じられた。奈留島での訪問を通じて、私自身がキリスト教との関わりを持つこともあり、奈留島に残る潜伏キリシタンの歴史に触れた経験は一層心に残るものとなった。人々が信仰を守り続けた背景を思うと、島全体に漂う静けさや祈りのような空気を強く感じた。「瞳を閉じて」の歌碑を目前にした際には、歌詞に込められた人を思う気持ち、歴史の中で信仰を守り抜いた人々の思いとも重なり、奈留島という土地が持つ温かさや深い精神性を改めて実感することができた。奈留島は美しい自然に恵まれた観光地であると同時に、人々の信仰や思いが長く受け継がれてきた特別な場所であると強く感じられた巡検であった。

#### 【参考文献】

- 一般社団法人長崎県観光連盟 江上天主堂（ながさき旅ネット）  
<https://www.nagasaki-tabinet.com/junrei/696>  
 (2025年11月12日閲覧)
- 五島市役所 映画「この夏の星を見る」(うとうの島たび)  
<https://goto.nagasaki-tabinet.com/feature/konohoshi>  
 (2025年11月12日閲覧)
- 五島市役所 チャンコロ(うとうの島たび)  
<https://gotonagasaki-tabinet.com/event/51138>  
 (2025年11月23日閲覧)
- 五島市役所 2020 福江武家屋敷通りの石垣  
<https://www.city.goto.nagasaki.jp/s014/010/10/020/180/20191224093053.html>  
 (2025年11月25日閲覧)
- 長崎県五島振興局2022 『五島の概要』  
<https://www.pref.nagasaki.lg.jp/shared/uploads/2023/03/1677652511.pdf>  
 (2025年11月12日閲覧)
- 長崎県文化振興・世界遺産課 奈留島の江上集落（江上天主堂とその周辺）  
<https://kirishitan.jp/components/com011>  
 (2025年11月25日閲覧)
- 「心にユージンの歌、感謝の旅立ち 五島・奈留高卒業生「瞳を閉じて」の縁／長崎県」『朝日新聞』2016年3月3日(朝刊・長崎版)